



三ツ境通信
(みつきょう つうしん)

令和2年度 校長室だより

第9号 R3. 1. 22

新しい年が始まりました

新しい年を迎え、学校では年度のまとめの3学期がスタートしました。本校は放送で、分教室は学年ごとで始業式を行い、今学期も元気で学習活動ができるように、そして明るい希望の年になるように願いを込めて話をしました。

新しい生活様式と感染拡大防止対策で緊張感のある日々が続いていますが、児童生徒の笑顔や挨拶、学習する様子にはいつも励まされ元気をもらっています。現在は緊急事態宣言が出されており、衛生管理と健康観察のいっそうの徹底を図っており、保護者の皆さまにも日々ご理解とご協力をいただき感謝しております。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

知ること、出会うこと、体験すること ～ブラインドサッカー研修会より～

教員対象の研修会においてブラインドサッカー選手の落合啓士氏を講師に招き、パラスポーツを通して障害に対する見方や考え方を深める機会がありました。和気あいあいとした楽しい雰囲気の中、コミュニケーションをとって身体を動かしながら、実に多くの発見や学びがあった研修会でした。

アイマスクをすると視覚情報がなくなり、支援者はまず「準備体操」で体の動かし方をどうやって伝えればいいのか、試行錯誤しながら早くも研修が始まっていました。知っている言葉や知識、あるいは聴覚や触覚など使える感覚を総動員して動作につなげる難しさを体験した参加者からは、指示の出し方の重要性、信頼関係の大切さなど、パラスポーツの理解だけでなく、見方や考え方、今後の授業や指導に活かせる気づきがあったという感想がたくさん聞かれました。

サッカー日本代表に選出された高い技術の素晴らしさとともに、お話の中での「何を手伝ってほしいと思っているかは一人ひとり違い、ニーズは全員同じではない」や「自分は『大丈夫ですか』という言葉よりも『何か手伝うことはありますか』と聞かれた方が嬉しいやすい」という言葉、当日用意していただいたJBFA公認ボールを蹴ったり転がしたりすると響く音、そしてボールに記載されているメッセージが印象的でした。



No Border But Mixture in Football

ボくらには夢がある。
障がいのあるなしに関係なく
サッカーでつながり、まざっていくこと。
日本ではじめてつくるこの音の鳴るボールも
そんな夢のための大切な一歩。
ボールの音をきき、声をかけあい、仲間を信頼し
立場も国境も、障がいもこえていく。
ボくらはボールひとつのチカラを信じてる。

